

ワークショップ「2013 パキスタンにおける統合的な洪水リスク管理能力向上」 実施報告



開講式での集合写真

ICHARM では、2013 年 5 月 28 日から 6 月 6 日まで、パキスタンの中級～高級行政官を対象に、ワークショップ「2013 パキスタンにおける統合的な洪水リスク管理能力向上 (2013 Capacity Development for Integrated Flood Risk Management in Pakistan)」を実施しました。

このワークショップは、2010 年にパキスタンで起こった大水害を契機に、日本政府からユネスコへの資金拠出によって開始したプロジェクト「パキスタンにおける洪水予警報及び管理能力の戦略的強化 (Strategic Strengthening of Flood Warning and Management Capacity of Pakistan)」の一環として実施したもので、昨年度に 6 名を対象として実施した同内容のワークショップの 2 回目になります。

ワークショップには、パキスタン気象局首席気象官をはじめとし、パキスタン水・電力省洪水委員会、パキスタン北部に位置するカイバル・パクトウンクワ州灌漑・電力局主任、シンドゥー州灌漑・電力局アドバイザー、およびバローチスターン州灌漑・電力局技術監督の 5 名が参加しました。

ワークショップの内容は、講義と現地視察の 2 本立てで構成されました。我が国の洪水対策に関する講義としては、日本の洪水対策に関する法体系、気象情報や洪水情報の取得・伝達方法、洪水予警報の仕組み、および複数のダムの連携操作事例などに関して実施しました。また最新の研究内容の紹介として、ICHARM で研究開発を行っている IFAS や RRI モデル、JAXA から開発員を招いての



竹内センター長による講義

GSMaPなどの講義を実施しました。5月30日には気象庁、国土交通省関東地方整備局河川部広域水管理司令室、(独)水資源機構を訪問し、それぞれにおけるご担当者から洪水予警報に関する講義やNARBO (Network of Asian River Basin Organization)のご紹介を頂きました。特に、関東地方整備局での講義においては、監視カメラが管内に約3000か所設置され、リアルタイムで河川や道路の状況が監視されているとの紹介があり、研修生は驚いていました。



気象庁での講義



関東地方整備局での講義

水資源機構でのNARBOのご紹介

翌31日からは主に現地視察を実施し、日本を代表する河川として、利根川・鬼怒川流域と荒川における各種洪水対策を紹介しました。利根川・鬼怒川流域においては、5月31日に、国土交通省利根川上流河川事務所を訪問し、河川の水位予測や地元市町村との連携に関するご講義を受けた後、1949年のカスリーン台風による洪水の実績水位が電柱に表示されている「まるごとまちごとハザードマップ」や久喜市栗橋支所における利根川水位表示板「川楽板」、栗橋駅構内に設置されている河川情報表示パネルを視察しました。その後、渡良瀬遊水地に移動し、水質改善や環境面にも配慮した遊水地の役割に研修生は興味を強く持ち、担当者に多くの質問をしていました。

6月3日には、鬼怒川上流域のダムおよび砂防施設の視察を行いました。まず、鬼怒川ダム統合管理事務所で、鬼怒川上流4ダムの概要と、五十里ダムと川治ダムの連携について講義を受けた後、川治ダムを訪問しました。川治ダムではダム内部の監査廊さらにキャットウォークを通り放水ゲート付近まで近づくことが出来ました。続いて、日光砂防事務所を訪問し、稲荷川における砂防事業の概要と効果についてご講義を受け、実際の砂防施設を見学しました。

6月4日には、我が国における都市河川での洪水対策として、荒川下流河川事務所のご協力のもと、展示館「amoa」で人工放水路としての荒川の歴史を学んだ後、スーパー堤防、

防災ステーション、耐震水門、ロックゲート（閘門）の視察を行いました。その後パキスタン大使館を訪問し、ファルーク・アーミル大使と意見交換を行うことが出来、参加者にとっては貴重な機会となりました。

6月5日には、本プロジェクトに関係する日本国政府関係省庁への表敬訪問として、国土交通省、外務省、文部科学省、および（独）国際協力機構（JICA）を訪問しました。各省ではそれぞれの課長・局長クラスにお会いすることが出来、貴重な意見交換の場となりました。



利根川上流河川事務所でのご講義



「まるごとまちごとハザードマップ」



利根川水位表示板「川楽版」
(久喜市栗橋支所内)



栗橋駅に設置されている
河川情報表示パネル



渡良瀬遊水地出張所でのご説明



渡良瀬遊水地内視察



鬼怒川ダム統合管理事務所でのご講義



川治ダム



日光・稲荷川での砂防施設



荒川・新田地区のスーパー堤防



船内から荒川の状況を視察



パキスタン大使館表敬訪問



国土交通省水資源・国土保全局長 表敬



外務省国際協力局課長 表敬



文部科学省日本ユネスコ国内委員会事務局 表敬



JICA 南アジア第二課 表敬



レポート発表会

最終日には、参加者から本ワークショップで得られた成果に関するレポート発表を行い、ワークショップの成果に関するディスカッションも行いました。引き続き、魚本理事長はじめ土木研究所幹部臨席のもとで修了式を実施し、魚本理事長からご挨拶を頂いた後、竹内センター長から参加者に修了証が手渡され、無事にワークショップは終了しました。



魚本理事長からのご挨拶



竹内センター長から修了証授与

参加者の多くからは、このワークショップの内容は大変良く考えられており、素晴らしいものだったとの評価を頂きました。特に、日本の河川管理とその着実な実施状況、渡良瀬遊水地のような遊水地はインダス川でも有効と思われること、荒川放水路があったために東京が発展してきたことに、強い感銘を受けたようでした。また、日光で見た砂防施設や、関東地方整備局で紹介いただいた関東管内に配備されている CCTV について、数名の参加者が強い興味を抱いていました。帰国後、今回のワークショップから得られた知見をもとに、パキスタンで考えられる将来の方向性や対策をまとめることとなりました。

最後になりましたが、本ワークショップの遂行に当たり、お忙しい所ご協力いただいた外部講師の皆様および、気象庁、国土交通省関東地方整備局、利根川上流河川事務所、鬼怒川ダム統合管理事務所、川治ダム管理支所、日光砂防事務所、荒川下流河川事務所、(独)水資源機構の皆様には、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。